



◆記念講演会

「悩む力」(要旨)

東京大学大学院教授 専攻は政治学・政治思想史 姜 尚中氏

実は長野県には少し縁がある。

大学時代

の片思いの人が長野県出身だったこと。恋文を出したが、返事はもらえなかった。(会場笑)

大学時代の恩師藤原先生は安曇野出身の政治哲学の先生。今から四十年位も前に、自然との調和なくして人間の社会はあり得ないという主張をしておられた。

韓国の元大統領、金大中氏(注；ここで姜尚中氏は、金大中氏の夫人が本校の卒業生だということを伝える予定だったと思われませんが、言い損ねてしまったようです)は、危機的だった韓国経済を大きく回復させた人で、日韓文化交流もプッシュし、今日のKポップや韓流の隆盛に繋げた。私が大学を卒業する頃、野党時代の彼は東京のホテルから本国の情報員によって拉致された。私はこの事件に大変ショックを受け救出運動に加わった。

大震災後、相馬市を訪れた。放射能汚染が深刻で、疎開して農業を学ばなければならない南相馬市の農業高校生たち。家族を亡くした虚ろな笑顔の高校生。一日に三か所で夫、娘、息子の遺体確認し一人残された女性。今まで見たことのない、別世界のような瓦礫の光景と空気。ここで起きていることは皆さんのような若い世代にとってどういう意味があるのか、我々のように他の地域に住んでいるものにとってどんな意味があるのかを考えた。

私の母は文字が書けない。勉強するという動機づけのない環境で、私は野球に打ち込んでいたが、ある時から引っ込み思案になり、悩んでいる時代が長かった。人は死ぬということを知らされた経験もトラウマになった。

また、男の子は十六～十七歳の頃、自分で自分を統制できないような何か知らない大きな力につき動かされることがある。性に目覚め、大人の社会を知り、友人関係に悩み、未来に展望を開けない。私にとっては、封建的な熊本の風土と野球部の生活も苦痛だった。しかし、この時期を徹底的に悩みながら渡る人と、難なく渡ってしまった人とは、厳しい時代に立ち向かう時のスタンスが違って来る。苦しむことは大切。

誰があの日大地震が起こると予想しただろうか。まさかよりによって自分が生きている時代に、しかも自分が青春を謳歌すべき時代にこんなことが起きるとは。皆さんや南相馬の高校生に、「Boys, be ambitious!」と言っても響かないだろう。あまりにも現実が重い。

皆さんは大変困難な時代に生き、日本も世界もうつ状態の中で青春を迎えている。だが今回のような事態に遭遇すると、人は取り繕った関係だけでは生きていけない。本来の人間に戻らざるを得ない。そこに希望がある。

大震災で日本は変わった。東京は節電で暗い。人々の生活も意識も変わった。二万人もの人が亡くなった。トーマス・マン『魔の山』の世界と今の日本の状況は似ている。今回のこの大きな変化を受け、ここで価値観を変えられなければ日本社会は駄目ではないだろうか。このことを無かったことにして、今までどおりに生きていくことはできない。

このことを一生懸命考えたのが夏目漱石。官費留学した先進国イギリスに日本が手本とすべき希望は無いと知った漱石は、『三四郎』の中で、帝都東京でどう生きていけばいいのかわからない熊本出の青年を描いた。悩む三四郎は私そのものだった。私は悩み、本も読み、悩むことは生きる力になるということとその時に学んだ。そして行動に出た。それが金大中氏拉致事件の時のハンガーストライキだった。

今イギリスで若者が暴動を起こしている、前にはフランスでも移民暴動があった。ウォール街にも一万人近い人々が繰り出している。私は、ああここにも十七歳だった自分と同じ若者がいると思ひ、彼らを単に暴徒とは呼べない。何を為すべきか、どう考えるべきか、若者が考え行動している。

放射能汚染の中でどう暮らしていくか。年寄りと若い世代とでは選択が異なる。これからは一人一人が自分で選択していくしかない。空気を読んだり、他人に合わせることで生き延びられない。自分で考え、身の丈で生きることを、漱石は「自己本位」と表現した。

人間には利己だけでなく、友愛関係で生きていたいという感情もある。福島や岩手の人を支援したいと行動した人が大勢いた。ゼロサム原理だったアメリカ社会にも、「あなたの幸福は私の幸福、あなたの不幸は私の不幸」といううねりが広がっている。フクシマに関してはせめぎ合いもある。生き物としての恐怖感から、他者に対して差別的、暴力的になっていく。しかし震災以降我々は学んだ。人を支えなければ人は生きていけない。「自己本位で、自分で考える。だからこそ他者を支える、そして支えられる。そういう時代にしなくてはならない。

希望というものは人から与えられるものではない。ユダヤ人強制収容所で死の瀬戸際まで行ったフランクルは「人生の目的は幸せになることではない。幸せは結果としてそうなる。大切なことは、人生の問いかけに応える努力をすること。そして生きる意味を見出す努力をしていくことだ」と言っている。

皆さんにも今後いろんなことがあるだろう。そんな時、“悩むのは生きている証拠だ、自分を支える生きる力だ”と思ひ生き延びてほしい。そして“共に”生き延び、希望に向かって進んでいってほしい。